

テーマ「人材育成における ICT の利用」

1、テーマ選定理由

(1) 背景

大学への入学が社会的な学力を保証していた時代は過ぎ去った。現在の大学は、少子化による学生数の減少から、大学への全入時代へと突入し、非学力試験制度で入学する人が増加した。それにより、かつての大学入学＝高い学力を持つという認識はなくなっている。本来、中・高等教育で修得しているべき教養が身につかないまま大学生になる人が増え、さらに企業が即戦力を求める傾向が強くなったため、大学教育のなかで求められることが変化している。

(2) 大学の役割

我々のグループが注目した大学に与えられた役割とは、社会が求める人材の育成である。社会が求める人材とは、専門的知識を修得している、能動的に行動できる、円滑な人付き合いができる人材、などが挙げられる。こうした人材を育成するために大学では、大学の質を向上させなければならない。大学の質は、学校教育法第 83 条にある大学の本質的役割に鑑みて①教育の質、②研究の質と 2 点挙げられると考えたが、今回は人材育成に注目するため教育の質向上について考えていく。

(3) 大学の現状と問題

(1) の背景を受けて社会が求める人材の育成を目的とした、教育の質向上を目指す大学の取り組みについてみていく。班員各々の大学では下記の取り組みがおこなわれている。

- ・ 課外活動の充実
- ・ PBL の実施(産官学連携)
- ・ アクティブラーニングの環境整備
- ・ 海外提携校の拡大
- ・ イングリッシュカフェの設置
- ・ 外国語のみで行う授業の開講
- ・ 反転授業 (ディスカッション)
- ・ グループワーク
- ・ 資格取得講座の設置 等

しかし、こうした取り組みに対する問題点が 2 点挙げられる。1 点目は、一部の学生のみが活用し、大半の学生が効果的に大学のコンテンツを利用できていない点。2 点目は、人材育成につながる授業が効果的に実施できているのか、という点である。1 点目の原因は、情報が散乱し多すぎることから自身に適した情報を学生が見つけにくいこと、そして 2 点目の原因は、ディスカッションやインタラクティブ授業をファシリテートできる教員が少ないためであると考えられる。

●A3 班では、こうした問題への解決策として ICT を利用する。

2、解決策の検討と大学への提案

(1) 情報の集約・整理・誘導・発信

学生が自身に適した情報を簡単に素早く手に入れることができるように、段階的に解決していく。

第1段階（集約）：ワンクリックでお知らせに到着できるサイトを作成する。

第2段階（整理）：他部署と協力し情報表示法のルールをつくる。

第3段階（発信）：SNSを利用してサイトを宣伝する。

（誘導）：情報をチャート化し、利用者が欲しい情報まで誘導する。

：関連したお知らせを表示するなど、各個人向けにサービスを展開する。

●想定する効果

学生が容易に情報取得⇒大学提供コンテンツの利用促進⇒参加増加⇒能力の開発・向上

(2) ICTによる教員の能力開発

学生にファシリテートできる教員が少ない現状への解決策を講じる。

・FD：基本的な教授能力を開発する。

・ICTツールの利活用：ツールを利用することで、教員の素養だけに頼ったこれまでの授業から、学生に効果的に能力を身に付けさせる授業(AL等)へと転換する。

・教員評価制度の導入：自身の授業を客観的に見ることで、授業形態の改善を促す。

●想定する効果

効果的な授業⇒学生の学びの質向上⇒能力の開発・向上

★上記の(1)、(2)を実施することで、社会が求める人材育成を図る。

3、大学へのイノベーションの提案（まとめ）

(1) 提案の概要

①学生への情報提供の整備

②授業の質の向上(インタラクティブ型授業の増加)

(2) 何を問題として捉えたか

①学生がうまく情報を取捨選択できない現状

②インタラクティブ型授業をファシリテートできる人材の不足

(3) どのようなアプローチが必要か

他部署・教員と連携

➢ 職員のコミュニケーション能力向上

➢ 職員のファシリテーション能力向上